

不耕起V溝直播栽培対応

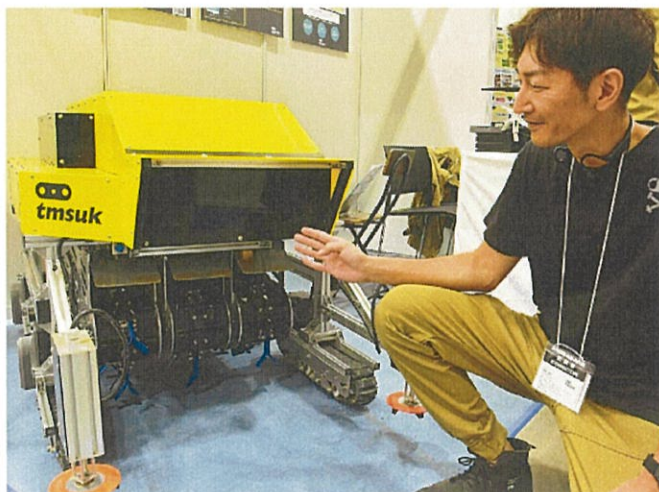
有機後押し除草ロボ

テムザック

農業用ロボットを手がけるテムザック(京都府)は愛知県と協力で、省力的な水稲の不耕起V溝直播(ちよく

は)栽培に活用できる除草ロボットを開発している。乾田とたん水どちらでも稼働でき、稲を傷つけずに

条間の雑草を除去することを目指す。小型で軽く運搬も容易。除草負担の軽減で有機農業の拡大に貢献する。



不耕起V溝直播に対応した除草ロボット(福岡市で)

開発中の除草ロボットは、福岡市で開いた展示会で試作機を披露した。試作機は四つの独立クローラーを採用し、ハンマーナイフと除草カッターを搭載。圃場(ほじょう)が比較的硬く、農薬を

使わない場合に除草が難しい不耕起V溝直播栽培技術の課題に対応する。将来的に自動走行を予定する。作業速度は10ア当たり2時間ほどを想定し、リースやレンタルでの利用を視野に入れる。現状での重量は200キログラムで、軽トラの荷台に積んで運搬できる。

(小林千哲)



不耕起V溝直播栽培 愛知県農業総合試験場が開発した。乾田に専用の播種機でV字形の溝を切り、播種と施肥を同時に行う。育苗と田植えを省略できる。移植栽培と比べて労働時間が3割減り、作業期も分散できるため規模拡大が期待できる。